

学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	藤本 晋輔
審 査 委 員		主 査 氏 名	日高 勇一
		副 査 氏 名	七島 篤志
		副 査 氏 名	保田 昌宏
[論文題名]			
Pancreatic enzyme activity in the bile of healthy cats and its association with biliary morphology 健全猫における胆汁中膵臓酵素活性の測定および胆道形態との関連性の調査			
[要 旨]			
<p>人の胆管炎の原因として、総胆管と主膵管の先天的合流異常が挙げられている。猫における総胆管と主膵管の走行形態は、元々人におけるそれらの走行形態と類似しており、猫における胆管炎もその解剖学的特徴に起因する事が指摘されている。しかし、健全な猫では元々胆道奇形が多いとされているが、猫における胆管炎発症例とそれら形態異常との関連性は不明である。また、人における膵胆管合流異常の診断法の一つに胆汁中膵酵素活性の測定が行われているが、猫における検討は未だ報告されていない。本研究では、腹腔鏡下卵巣子宮摘出術を行った健全猫 52 頭を対象に、腹腔鏡下手術中に胆道系の観察と計測、および胆汁の採取を行い、胆汁中のアミラーゼおよびリパーゼそれぞれの活性値を測定した。</p> <p>胆道系の観察結果では、胆嚢管は様々な形態を呈し、蛇行、拡張が認められた。一方、総胆管は全例においてほぼ直線状に走行していた。さらに、胆嚢管の最大横幅と総胆管の最小横幅との比率を算出し、中央値の 3.4 を基準に、それ以上とそれ以下の 2 群に分類した。この 2 群間における膵酵素活性値の比較では、胆嚢管の最大横幅と総胆管の最小横幅との比率 3.4 以上の群において胆汁中アミラーゼ活性が有意に高値を示す結果となった。</p> <p>本研究の結果、胆嚢管の拡張は膵液の逆流に関連性があることが示唆された。今後、胆管炎を発症した猫の症例について胆汁中の膵酵素活性を測定し、その臨床的有用性を検討する必要がある。</p> <p>本研究の成果は、臨床獣医学関連の国際的学術雑誌に受理されており、学位論文に値すると判断した。</p>			